大妻女子大学　地域連携推進センター
令和 3 年度年報

第 9 号

令和 4 年 6 月

大妻女子大学　地域連携推進センター

目　次

地域連携推進センターの概要 ……1
　地域連携推進センター設置の背景 ……1
　運営基本方針 ……1
　機能と役割 ……1
　組織構成 ……2
　委員会構成 ……2
　構成員 ……3
　施設設備 ……4
令和３年度 地域連携プロジェクト報告 ……5
　令和３年度 地域連携プロジェクト概要 ……5
　令和３年度 地域連携プロジェクト採択一覧 ……5
　和装振興プロジェクト～伝えよう！和服の魅力～ ……6
　三番町アダプトフラワーロードの会との地域美化活動 ……8
　保育の魅力を保護者に伝えるための、少子化地域の行政との協働プロジェクト ……10
　科学技術館との地域連携活動における野外活動プログラム
　および学習用ワークシートの作成プロジェクト ……12
　能登の里海を守る：海育実践と地域活性化プロジェクト ……14
　多摩ニュータウン松が谷プロジェクト推進と寺子屋活動の推進 ……16
　みんなで防災大作戦！～防災を日常に～ ……18
　からきだ匠(たくみ)カフェ～地域がつながる場所～ ……20
　持続可能な食を支える食育推進プロジェクト ……22
　地域の多世代がつながる味噌作りプロジェクト ……24
令和３年度 地域貢献プロジェクト報告 ……26
　令和３年度 地域貢献プロジェクト概要 ……26
　令和３年度 地域貢献プロジェクト採択一覧 ……26
　健康的な女性のための「食・運動・医」オンライン講座の開設 ……27
　小学校の読書活動推進への貢献を図る学生ブックソムリエの展開 ……29
大妻さくらフェスティバル 2022 ……31
　パンフレット表紙デザイン画 ……31
　俳句大賞 ……31
　動画配信 ……31
業務報告 ……32
　令和３年度の事業 ……32
　令和３年度の予算・決算報告 ……36
　令和３年度の会議 ……36
資料 ……37
　大妻女子大学地域連携推進センター規程 ……37

大妻女子大学地域連携推進センター運営委員会規程 …… 39
大妻女子大学地域連携推進センター企画実行委員会規程 …… 41

地域連携推進センターの概要

地域連携推進センター設置の背景

平成 17 年 1 月の中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像（答申)」において、21 世紀における大学の使命は、教育と研究だけでなく、社会貢献が第三の使命とされました。大学の自己点検・評価にも含められているように、大学が果たすべき役割の中で、学術研究や人材育成に加えて「地域連携」が重要性を増してきています。

本学でも、「大妻学院のミッションと経営指針（平成 20 年 9 月)」において「教育機関としての社会的責任を認識し地域社会との連携に努める」ことが掲げられ、学院の社会的責任として「今後地域貢献を展開させていく組織として教職員協働による地域連帯センター（仮称）による組織的支援が欠かせない」と述べられています。

平成 21 年度に開催された「地域社会との連帯に関する懇話会」では、様々な角度から本学の地域連携の在り方を検討した結果、今後一層、在学生、教員、卒業生と地域社会との連携を活性化して広報につなげると共に、それらを促進する機能として「大学の社会的責任（USR）全般に関わる情報の整理と一元化、連絡・調整、広報の一部を担うもの」として地域連携に関わる包括的センターが必要であるとまとめています。

また、これら社会貢献や社会的責任という視点に加え、学生が地域の諸活動に参加することは、主体性や積極性を養い、実体験を通して考える機会となり、教育的観点からも地域連携の推進が重要であることは言うまでもありません。

これらを背景として、平成 25 年 4 月 1 日に地域連携推進センターが新たに設置されました。

運営基本方針

1. 大学の社会的責任として、地域連携を積極的に推進することを基本方針とする。
2. 地域連携でいうところの「地域」は、近隣地域に限らず、地理的範囲を超えた保護者、卒業生、関係機関、企業、行政など、大妻女子大学を取り巻くステークホルダー全体を含むものとする。
3. 地域連携の内容は、大妻女子大学の教育理念である「女性の自立のための女子一貫教育」の考えを踏まえ、学生が様々な地域と関わる中で主体性や自立心を身に付けることができるよう、その活動に在学生が直接関わったり、その成果を在学生の教育に反映できるものについて、重点的に取り組む。

機能と役割

1. 広報機能

   地域連携のテーマの下、学内における既存の活動や事業を WEB サイト等でタイムリーに発信するとともに、年次報告の形で、本学の地域連携の実績を外部に公表する。

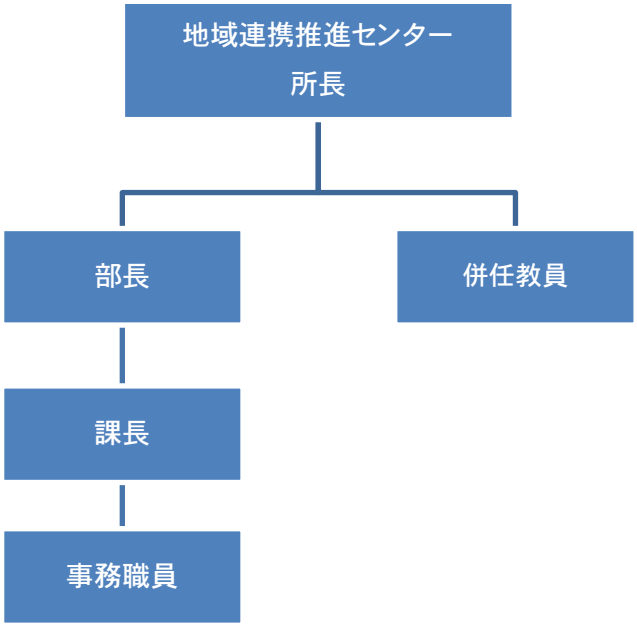
2. マッチング機能

社会のニーズ（市民、企業、行政等）と大学の持つ機能のマッチングを支援し、学外からの「地域連携」に関連した相談や紹介要請に応え、学内の資源につなげる。

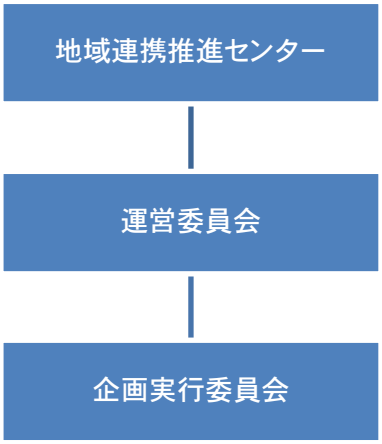
3. 企画・活動促進機能

社会貢献や社会的責任の実行のみでなく、教育機能を併せ持つ地域連携活動を企画し、活動を促進するため、「地域連携プロジェクト事業」（5 ページ参照）を、また、より地域に根ざした活動を促進するため「地域貢献プロジェクト事業」（26 ページ参照）を地域連携推進センターの下に創設し、その運営を行う。

組織構成



委員会構成



構成員

令和３年度　地域連携推進センター名簿

構成員	氏　名	所属等
センター所長(学長が任命)	小川　　浩	副学長
センター事務部長	村田　裕道	事務局
センター事務課長	栗田　陽介	事務局
センター事務職員	中本　　猛	事務局
センター事務職員	宮澤　律江	事務局
併任教員(学長委嘱)	岩瀬　靖彦	家政学部
	千田　誠二	文学部
	炭谷　晃男	社会情報学部
	堀　　洋元	人間関係学部
	佐藤　　実	比較文化学部
	堀口　美恵子	短期大学部

令和３年度　地域連携推進センター運営委員会名簿

構成員	氏　名	所属等
センター所長	小川　　浩	副学長
センター事務部長	村田　裕道	事務局
センター事務課長	栗田　陽介	事務局
家政学部長	市川　　博	家政学部
文学部長	五十嵐　浩司	文学部
社会情報学部長	藤村　　考	社会情報学部
人間関係学部長	福島　哲夫	人間関係学部
比較文化学部長	佐藤　　円	比較文化学部
短期大学部長	松木　　博	短期大学部
人間文化研究科長	堀江　正一	人間文化研究科
事務局長	鈴木　　勉	事務局
その他学長の委嘱する者	重松　博之	常任理事

令和３年度　地域連携推進センター企画実行委員会名簿

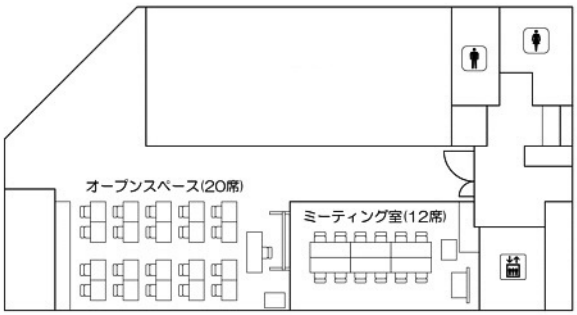
構成員	氏　名	所属等
センター所長	小川　　浩	副学長
センター事務部長	村田　裕道	事務局
センター事務課長	栗田　陽介	事務局
センター事務職員から１名	中本　　猛	事務局
併任教員	岩瀬　靖彦	家政学部
	千田　誠二	文学部
	炭谷　晃男	社会情報学部
	堀　　洋元	人間関係学部
	佐藤　　実	比較文化学部
	堀口　美恵子	短期大学部
各学部・研究科から選ばれた専任教員	岩瀬　靖彦	家政学部
	千田　誠二	文学部
	炭谷　晃男	社会情報学部
	井上　修一	人間関係学部
	佐藤　　実	比較文化学部
	堀口　美恵子	短期大学部
	炭谷　晃男	人間文化研究科

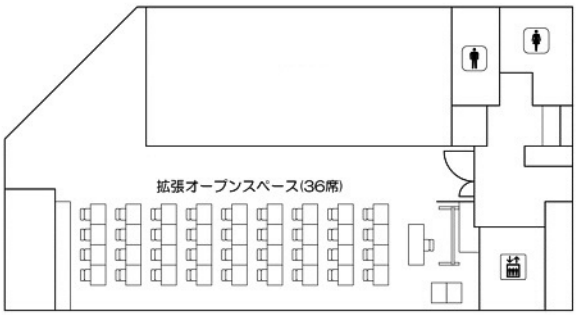
施設設備

地域連携推進センター事務部は、千代田キャンパスの別館 7 階にあります。

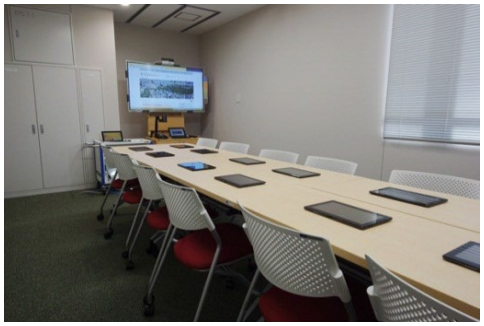
別館 7 階にはミーティング室、オープンスペースがあります。ミーティング室の間仕切りは可動式となっていて、間仕切りを移動して収納すると、1 つの大きなオープンスペースになります。

ミーティング室とオープンスペースには、文部科学省の平成 25 年度「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」によって導入された ICT 機器が設置され、学生、教職員、地域の方々による地域連携活動、情報発信の場として活用されます。収容人数はミーティング室が 12 名、オープンスペースが 20 名で、ミーティング室の間仕切りを収納して大きなオープンスペースにすると 36 名になります。





オープンスペース



ミーティング室

導入された ICT 機器は、タブレットパソコン 40 台、電子黒板、プロジェクター、教材提示装置、講義支援システムなどで、パソコンはすべて無線 LAN でつながっています。教員のパソコン画面を電子黒板に映し出し、電子ペンで画面にマーキングをしたり、受講生のパソコン画面を電子黒板に提示して、受講生全員でディスカッションをするなど、ICT（情報通信技術）を活用したいろいろな使い方ができます。

Windows8.1 仕様のタブレットパソコンは、画面を指でタッチして操作できるだけでなく、必要に応じてキーボードを接続し、通常のノートパソコンとしても使うこともできます。また無線 LAN とバッテリー駆動により、パソコンをコードレスで扱えるため、机の場所にとらわれることなく、20～30 人の講義形式から、数人ずつのグループ学習まで幅広く対応することができるようになっています。

タブレットパソコン

※地域連携推進センター事務部は、令和 4 年 3 月に本館 1 階へ移転しました。

令和 3 年度 地域連携プロジェクト報告

令和 3 年度 地域連携プロジェクト概要

1. 趣旨

教職員のグループ又は教職員と学生のグループによる、学生の主体性や自立心が身に付く地域連携活動の一層の推進・発展を図ることを目的に、その活動経費を補助する。

2. 対象テーマ

地域社会との連携を活性化するとともに、学生の教育に反映できる活動。分野は不問。

3. 応募資格

大妻女子大学の複数の教職員又は教職員と学生（大学院生・短大生を含む）で構成するグループ。
応募するグループは、下記 3 つの要件をすべて満たしていること。

①地域連携に資する活動であること（地域連携の推進）
②在学生が主体的に参加する活動又は成果を在学生の教育に反映できる活動であること（地域連携と教育の融合）
③個人ではなくグループによる活動であること（学内連携の推進）

4. プロジェクト支援期間

令和 3 年 5 月 13 日(木)～令和 4 年 3 月 31 日(木)

5. 支援額及び採択件数

支援額：1 プロジェクトにつき 30 万円を上限
採択数：10 件程度

令和 3 年度 地域連携プロジェクト採択一覧

プロジェクト名	代表者
和装振興プロジェクト ～伝えよう！和服の魅力～	阿部　栄子
三番町アダプトフラワーロードの会との地域美化活動	石井　雅幸
保育の魅力を保護者に伝えるための、少子化地域の行政との協働プロジェクト	石井　章仁
科学技術館との地域連携活動における野外活動プログラムおよび学習用ワークシートの作成プロジェクト	木村　かおる
能登の里海を守る：海育実践と地域活性化プロジェクト	細谷　夏実
多摩ニュータウン松が谷プロジェクト推進と寺子屋活動の推進	炭谷　晃男
みんなで防災大作戦！～防災を日常に～	堀　洋元
からきだ匠(たくみ)カフェ～地域がつながる場所～	八城　薫
持続可能な食を支える食育推進プロジェクト	堀口　美恵子
地域の多世代がつながる味噌作りプロジェクト	富永　暁子

和装振興プロジェクト～伝えよう！和服の魅力

阿部　栄子　教授
(家政学部　被服学科)

【プロジェクトの目的】

2006 年に教育基本法が改正され、「伝統や文化を尊重し我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が新たに教育目標として規定された。この規定を受けて、2008 年 3 月の学修指導要領告示でも国際社会で活躍する日本人育成のため、我が国の郷土の伝統や文化を受けとめ、それを継承・発展させるための伝統や文化に関する教育の充実が求められてきました。しかしながら、高等学校までに和服に関する教育を受ける学生の能力やレディネスが変化してしまった現状にあります。そこで、本開催を通して世代を超えた人々が広く和服に興味をもち、日本文化への理解を深め、着実に後世へと「きもの（和服)」と「きもの（和服）文化」を伝承していくことを目的として実施しました。

【本プロジェクト活動の内容】

これまでに、本学家政学部被服学科における卒業研究（和服製作）はいくつかの団体・地域から注目されてきました。数年前からは、日本橋（東京）における“きものサローネ in 日本橋”において、学生きもの優秀作品として選定・公開展示されています（日本橋 東京・COREDO 室町 2)。引き続き、2021 年度も和装きもの 3 点（何れも婚礼衣装）が選定されたので、これらの作品展示とコーディネートを本プロジェクトの学生が担当するとともに、展示期間中の来場者への解説を担当しました（展示公開；2021 年 10 月 23～24 日、東京国際フォーラム E ホール)。

展示の様子（東京国際フォーラム E ホール）

［本学からの作品（右手 3 体）］

展示の様子

展示ポスター

［展示された本学の作品］

1. 作品名；婚礼衣装「色打掛」　池上 美来さん（2021 年 3 月卒業）
2. 作品名；婚礼衣装「引き振袖」　髙柳 彩さん（2020 年 3 月卒業）
3. 作品名；婚礼衣装「着物ドレス」　佐藤 優奈さん（2020 年 3 月卒業）

＊なお、この展示イベントは 2012 年から毎年開催されている「きもの」を楽しむ国内最大のファッション＆カルチャーイベントである。「学生きもの優秀作品展」は、2019 年からスタートした企画であり、全国で和裁を学ぶ学生が製作した中でも特に優れた作品を紹介するもの。本学は 3 回連続の選定・展示となる。

本展示の開催は、在学生、卒業生、地域住民を対象として実施することに加えて、都内および近郊の染織工房や和装関係者、全国の有名産地も集結することから、熟練された技術者から体験談などが伺える機会を確保したいと思い、計画したプロジェクトの実施です。

この実施を通して、日本文化、きもの文化を多くの若い人たちに深まったことは大変意味深いことと思っています。また、この活動を通して多くの方々に「きもの（和服）」と「きもの（和服）文化」を知っていただき、その素晴らしさを再認識してほしいと考えています。そして、若い人たちが気軽に楽しめる衣服として「きもの」をもっと身近に感じてほしいと願っています。

このような開催を通して、本プロジェクトも和服製作・着装を含めた実技をも指導できる本格的なプロジェクトチームとして成長したいと考えています。構成メンバーの学生自らも和服の製作、着用目的別のコーディネートと着装を学ぶ中で、自信をもって和服の魅力を人に伝えたことによって学びの自信に繋がったものと感じています。

【プロジェクト実施の効果】

学生は、このようなプロジェクトに参加することができたことで、さまざまな経験をすることができました。本学の学生だけでなく、広く地域住民を対象に「きもの（和服）」について、解説ができたことは何よりも大学での学びを生かすことができた充実感と、今後の学びに有益なものになりました。このような貴重な機会を学生に与えていただきました「大妻女子大学地域連携プロジェクト」に、心から感謝申し上げます。

三番町アダプトフラワーロードの会との地域美化活動

石井　雅幸　教授
(家政学部　児童学科)

1　はじめに

本取り組みは、2007 年から、三番町町内会、九段小学校、(株)プランナーワールド、大妻学院が協定を結んで取り組んでいる三番町フラワーロードの会の活動です。本取り組みは、番町学園通りの九段小学校から大妻学院交差点までの街路樹の升の中に夏前と冬前に花を植えて、管理を行うことを通して、三番町の街をみんなで美しくしていきましょうという取り組みとしてはじまりました。九段小学校の児童が中心となって花を植えその活動を地域の大人が支えていこうというものでした。その後、本活動は、1 年と 2 年の児童教育専攻の学生が科目の一つである児童学基礎体験演習の一つの取り組みとして始めました。それとともに、地域の声もあって花を植える範囲を拡大させました（図 1 内の丸数字が書かれた場所)。また、一緒に活動する地域の団体にあい・ぽーと麹町も加わり参加者の数も花を植えている範囲も拡大しています。

2　令和 3 年度の活動内容

令和 3 年度は、大学の対面授業の一部再開を受けて、春の花植活動を始めました。ところが、九段小学校の児童の皆さんは、感染防止の観点から本活動への参加を見送りました。それでも、地域の皆さんと学生たちで花を植え、植えた花の管理を継続してきました。また、秋の花植活動から千代田区立九段小学校と九段幼稚園の子供たちが参加でき、児童や園児と地域の皆さんが一緒になって花植え活動を行うことができました。活動した日時に従って活動内容を紹介します。

○4 月から　昨年度から引き続きの花の管理活動

○5 月 13 日(木)第 1 回フラワーロード打合会（九段小学校にて）：花の選定、活動確認等

○6 月 10 日(木) 9 時から花を植えるための準備を行いました。地域の方々と学生・教員とで、フラワーロードの対象の街路樹下の升の土の耕し、堆肥を加える作業を行いました。

○6 月 16 日(水)花の入荷　花を分ける作業を行いました（大妻女子大学にて)。

○6 月 17 日(木)地域の皆さんと 1，2 年の学生並びに大妻中高の生徒さんによる花植活動の実施

○6 月以後の花の管理活動（水やり、草取り、花が枯れた場所の花の追加等）

○10 月 15 日(金) 第 2 回フラワーロード打合会（九段小学校にて）：花の選定、活動確認等

○11 月 4 日(木) 9 時から花を植えるための準備を行いました。地域の方々と学生・教員とで、フラワーロードの対象の街路樹下の升の土の耕し、堆肥を加える作業を行いました。

○11 月 10 日(水)花の搬入（九段小学校）　九段小学校の先生、職員の皆さんが花を分ける作業等を行ってくださいました。

○11 月 11 日(木)9 時 30 分、三番町アダプトフラワーロードの会（秋冬）を実施いたしました。千代田区立九段小学校・九段幼稚園、大妻女子大学児童教育専攻 1、2 年生、三番町町内会、プランナーワールド、あい・ぽーと麹町の皆さんが活動を行いました。※大妻中学高等学校の生徒さんが別日に、大妻中学高等学校の前の升に花を植える作業を行いました。

○11 月以降 4 月まで、1 週間から 10 日に一回の割合で散水を行ったり、ゴミを拾ったり、草取りを行ったりしてきました。

○12 月　花が枯れてしまった場所に、ストックエリアから花を移植しました。

○2 月　水やり草取り活動と並行して、枯れてしまった箇所などに新たにパンジーとビオラを植えました。追肥も併せて行いました。

○4 月以降も令和 4 年度児童教育専攻に入学の 1 年生と 2 年になった児童教育専攻の学生とで散水、草取り作業を行っています。

図 1　花を植えている場所

3　終わりにかえて

学生たちは、地域の皆さんや小学生や園児と活動できることを楽しんでいます。日常的な活動であります散水や草取りを行っていると地域の皆さんが「ありがとうね」や「ご苦労様」と声をかけてくださります。学生たちは、自分たちが地域の中にあることや自分たちの活動を誇りに思う気持ちを強く持って来ています。こうして、一年が過ぎ、また、次の年がやってきます。今年も地域の皆さんとともに美しい三番町をつくっていきたいと思っています。

図 2　九段小学校の児童と花を植えた時の様子

協力者：厚東　芳樹・林　明子・酒寄　翠、児童学科児童教育専攻 1 年と 2 年全学生と令和 3 年度本専攻編入生
三番町町内会・千代田区立九段小学校・(株)プランナーワールド・あい・ぽーと麹町・大妻中学高等学校
千代田区役所環境まちづくり部道路公園課

保育の魅力を保護者に伝えるための、

少子化地域の行政との協働プロジェクト

石井　章仁　准教授
(家政学部　児童学科)

1. 取り組みの目的

本学児童学科の保育を学ぶ学生が、人口減少地域の公立保育所・認定こども園の保育について、自ら取材し、その良さを保護者や地域の子育て家庭へ周知する取り組みを行った。

2. 取り組みの方法及び内容

取組については、学生の目線で見た「保育の良さ」を保護者やこれから園を選ぶ地域の保護者に対して知らせるため、広報冊子を作成した。

冊子の作成については、①市の保育課の担当者との打ち合わせ、②冊子の内容の検討、③取材、④編集という過程を経た。

参加学生 13 名が主体となって作成した。打ち合わせについては zoom で行い、内容の検討は、全員で取り組んだ。取材班 10 名と編集班 3 名に分かれて、取材及び編集作業を行った。冊子の写真は、ほぼ学生が撮ったものであり、一部提供されたものである。また、冊子のタイトルは、分かりやすく馴染みやすいものと、学生のアイディアで「とうがねの園どうかね」とした。なお、写真の撮影については事前に市の子ども課、園と協議し承諾を得て行った。また、使用する写真については、全て保護者に確認を取っていただいた。

冊子は、500 部を作成し、市の子ども課へ贈呈した。市の子ども課より、園の保護者及び保育者へ配付していただくとともに、地域の公共機関等、子育て家庭が手にとりやすい場所にて配布していただく予定である。また、ホームページで PDF ファイルをダウンロードできるようにしていただくとともに広報誌でも紹介していただく予定になっている。

3. 取り組みの成果（作成した冊子の内容）

冊子の内容は、以下の通りである。表紙裏表紙合わせて、16 p で構成されている。

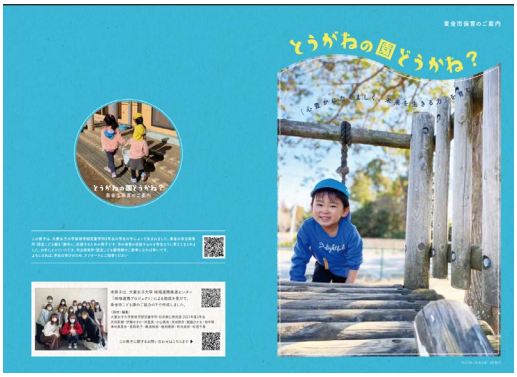
4. 活動の成果

今年度の活動については、学生の実習の日程やコロナの影響等もあり、取材の日程が予定通り進まなかったため、当初の計画通りにいかなかった部分も多くあった。

しかしながら、学生は、園の良い部分を探し、それを写真に撮り、撮った写真から数枚を選別し、ふさわしい文章を考える過程を通して、保育について、また子育て支援について、広義に「伝える」という業を通して、実習とは異なる手法での実践的学びの機会となったことは言うまでもない。

また、市の担当者や園の関係者も良いものができたと評価していただき、学生の自信となったと考える。人口減少地域の保育に光を当てる一助になればいいと考える。

①表紙と裏表紙



②1-2ｐ（市の保育の目指すものなど）

③3-4ｐ「遊び～子どもの主体性を大切にする」

④5-6ｐ「自然～東金の豊かな自然に囲まれて」

⑤7-8ｐ「食育～食を楽しみ生きる力を育てる」

⑥9-10ｐ「保育のこだわりポイント」

⑦11-12ｐ「地域との関わり」「保育者も学び続けます」

⑧13-14ｐ「保育所・認定こども園ＭＡＰ」

科学技術館との地域連携活動における野外活動プログラム

および学習用ワークシートの作成プロジェクト

木村　かおる　常勤特任准教授
(家政学部　児童学科)

令和3年度　地域連携プロジェクトで「科学技術館との地域連携活動における野外活動プログラムおよび学習用ワークシートの作成プロジェクト」が採択され、コロナ禍での活動内容の修正を行いつつ、野外活動プログラムの企画、ワークシートの開発、実施、博物館等の資料の活用の検討などを実施いたしました。

1 本プロジェクトの企画と目的

学校教育においては、積極的に地域の博物館等を利用することが推奨されていますが、時間的制約や、どのように博物館等のリソース（人材・場所・資料など）を利用したらよいかの議論は十分になされていません。一方で博物館等では年間を通じて専門家による科学教室や、自然観察会などのイベントが行われています。しかしながら、これらのイベントは一過性のものであり、不特定多数を対象に、持続性がなく、その時に興味を持った参加者のフォローアップすることが難しいのが現状です。そこで、本プロジェクトでは、博学連携の推進として地域の博物館等のリソース（人材・場所・資料など）を活用し、地域連携イベントや個人の活動にも使える自然体験活動の企画とワークシートを作成することを目的としました。ワークシートは、活動に参加した後も繰り返し足を運んで観察ができるように工夫をしました。

2 野外活動プログラム「多摩川の源流の観察」について

観察場所を山梨県甲州市にある東京都水道局水源林とし、あらかじめ東京都水道局ホームページで公開されている散策路（https://www.mizufuru.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/fureaino-michi/yanagisawa/）から観察ルートを仮設定し、6月下旬に専門家（講師）とともに多摩川源流の実地踏査を行いました。現地では都心部からの交通手段、観察ルートと周辺の地形・地質及び岩石の特徴、野鳥や植生などを調査しました。実地踏査の後、散策路のマップ上に観察箇所を書き込み、観察のポイント、何を解説するか、観察や記録にかかる時間を見積もり、コースの設定とワークシートのデザインを行いました。プログラム実施前には、参加者が活動後にも調べ学習ができるように、地質標本館の展示や解説などを調査して、より専門的な情報を提供できるように工夫しました。この活動は地域連携プログラムとして、千代田区の小中学校および科学技術館サイエンス友の会会員に呼びかけ参加者を募りました。交通手段は、新型コロナ感染の対策を考慮し、貸し切りバスを手配しました。車内でのソーシャルディスタンスを保つため、片側1名の着席としたため、募集人数を20名としました。また、指導者には野外活動の指導者育成として、理科支援員養成講座（児童臨床研究センター）を受講した当大学の学生にも参加してもらいました。

3 野外活動プログラム「多摩川の源流の観察」の実施

「多摩川の源流の観察」は下記の行程で実施しました。

実施日：2021年11月28日（日）

表1　多摩川の源流の観察スケジュール

8:00	指導者集合、持ち物チェック、積み込み
8:20	大学前集合、出席、体調確認
8:50	バスにて出発
11:30	裂石温泉下 岩石の観察(体験)
12:10	柳沢峠到着 トイレ休憩、活動内容の説明(柳沢峠駐車場)
12:30	水源地ふれあいのみち 散策開始 花崗岩、泥岩（転石）の観察と WS に記録、 多摩川の源流の観察、川幅、周辺の石の大きさと種類
13:40	観察終了　バス駐車場に戻る
14:30	柳沢峠出発(休憩 1 回)
18:00	大学前到着。解散

参加者の内訳は表2の通りで、男子12名、女子8名となりました。参加者の地域性を見ると、千代田区内の児童・生徒が14名、千代田区外から6名の参加がありました。うち1名が当日体調不良で欠席となりました。

表2　参加者の内訳

小学 4 年生	14
小学 5 年生	4
小学 6 年生	1
中学 2 年生	1
	20

図1：多摩川と花崗岩について

図2：多摩川源流での活動の様子

4 野外活動プログラム「多摩川の源流の観察」ワークシートと子どもたちの様子

ワークシートには、自分たちが住んでいる場所と、多摩川流域の全体像が分かる地図（地質図）を準備し、バスで移動中も多摩川の中流地域を確認して観察の動機付けを促すようにしました。また、源流付近の地質図（拡大）を示すことで、自分たちの足の下にある岩の性質を知ることができました。特徴である花崗岩の一枚岩の上に上がり、石を手に取り、ワークシートを見ながら講師の先生からの話を聞くことができました。さらに多摩川源流の散策では、国土地理院の電子国土Webから観察ルートの地図を作成し、地図を見ながら自分たちが歩いている個所を確認しながら、観察ポイントの情報を記入することができました。

5 まとめ

今回は、東京都水道局が家族向けに公開している水源林の散策ルートを活用しました。家族向けの一般的なハイキングのルートでも、そこに自然観察の要素を取り入れ、ワークシートを活用することで、これまで博物館等の一過性だったイベントを、家族の旅行としても楽しむことができることが期待できます。今後は、ワークシートの改善、汎用化と、指導者の養成に取り組みたいと感じました。

能登の里海を守る：海育実践と地域活性化プロジェクト

細谷　夏実　教授
(社会情報学部　社会情報学科　環境情報学専攻)

1. はじめに

日本は四方を海に囲まれており、昔から海と深い関わりを持って暮らしている。一方、近年、マイクロプラスチックや海洋酸性化など、海をめぐる環境問題が生じてきている。今後、海の環境を守りながら、持続可能な形で海を利活用していくことが重要になってきていると言える。

私たちのゼミでは 2015 年から、能登半島にある穴水町を主な場として活動を行ってきた。穴水町は穴水湾に面しており、海との関わりが深い町である。そのため、これまで私たちは、地元の里海里山保全や、子どもたちに海の大切さや楽しさを学んでもらう海育（うみいく）の活動などを行ってきている。こうした活動の成果は、2018 年 7 月の穴水町と本学との包括連携協定締結にもつながっている。

今回のプロジェクトでは、里海保全についての理解を深め、地域活性化の助けとなるような情報発信を行うこと、また穴水町との連携実績を活かして新たな海育の取り組みを行うことを目指した。特に、新型コロナウイルス感染症が終息していない状況に鑑み、オンラインを活用した取り組みを新たに実施することを計画した。

2. 活動内容

新型コロナウイルス感染症の状況が好転せず、当初計画した活動のうち、大学祭での展示や町のイベント参加など、対面型の活動についてはいずれも実施することができなかった。

一方で、これまで培ったつながりを活かして、以下のような取り組みを実施した。

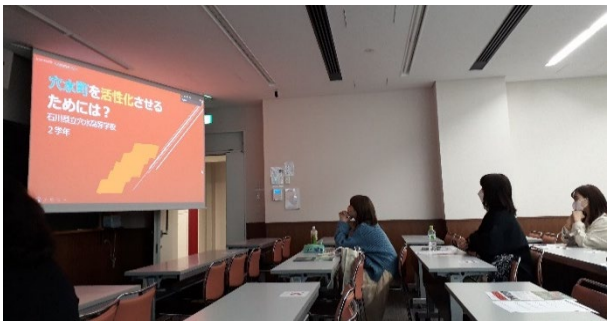
1） 穴水高校とのオンライン交流（2021 年 11 月）

穴水高校の生徒と Zoom を使ったオンライン交流を初めて実施した。

具体的にはまず、総合的な探求の授業で観光客誘致のために町の PR や商品開発に取り組んでいる穴水高校生 5 名が、自身の活動のプレゼンテーションをし、その後、ゼミ生との意見交換を行った。

ゼミ生からは、PR 方法として SNS 活用などのアイディアが提案された。さらに、日頃のゼミ発表などで得た穴水町や能登についての情報を踏まえ、ゼミ生が感じている穴水の魅力を伝えるなど、様々な情報交換を行うことができた。

この取り組みは地元の新聞でも紹介された。



穴水高校生のプレゼンテーション（画像を一部加工）

オンラインでの交流をする学生の様子

2） 向洋小学校の子どもたちとの「うみいくカード」作成（2021 年 10 月～2022 年 3 月）

穴水町にある 2 つの小学校のうち、向洋小学校の児童と 2018 年度から「うみいくカード」の作成を行っている。具体的には、小学校の先生方と子どもたちと協同で、3 年生がふるさと教育で実施しているかき棚見学を題材とした絵と文章をポストカードにする取り組みである。

取り組みを行った向洋小の 3 年生 7 名（画像を一部加工）

コロナウイルスの感染状況から、現地に出かけることはできなかったが、取り組みが 3 年目ということもあり、小学校の先生方との連携もスムーズに行え、例年通りカードを作成することができた。

先生方の指導の下で、2021 年度の 3 年生 7 名全員が見学後に絵と文章を作成した。それを本学に送付してもらい、絵と文章をパソコンに取り込んでカードの原図を作成した。さらに完成した原図をハガキに印刷し、7 名分を 1 セットとして 2020 年度作成済のケースに収納した。

完成したカードを机に並べる子どもたち

完成したカードは、これまで地元のイベントである「雪中ジャンボかきまつり」や道の駅などで一般の方たちに配布し、感想を集めていた。しかし、今回はコロナウイルス感染症拡大のため一般の方への配付は実施できなかった。一方で、子どもたちがカキ棚見学でお世話になったカキの養殖業者の方など、地元の関係者には小学校を通じて配付されたとのことである。

3. まとめ

今回のプロジェクトでは、対面型の活動はできなかったものの、オンラインを活用した新たな取り組み、また、すでに体制ができあがっている取り組みについて、実施することができた。こうした取り組みを通して、里海の大切さの周知や、地域の活性化などに向けた情報交換や発信の基礎固めについてのサポートができたと考えている。

新型コロナウイルス感染症の状況はまだまだ不透明なことも多いが、オンライン活用の拡充なども検討しながら、今後も、里海保全や地域の活性化に向けて、地域の方たち、学生たちと力を合わせて活動を継続していきたいと考えている。

多摩ニュータウン松が谷プロジェクト推進と寺子屋活動の推進

炭谷　晃男　教授
(社会情報学部　社会情報学科　情報デザイン専攻)

1 経緯

2021 年は多摩ニュータウンに入居開始 50 年目、多摩市制施行 50 年の記念する年である。多摩ニュータウンも成熟度が増してきたが、この COVID-19 の感染拡大にともない、これまで潜在化していた問題が一挙に顕在化してきている。つまり現行のハード面と暮らし方のソフト面との齟齬である。これからの時代は新たなハードをつくる「まちづくり」ではなく、これまであるハードをリフォームしながら人々の暮らしを支えるソフト面を重視する「まちづかい」の時代に入ったと言える。そこで、入居 40 年を経過した八王子市松が谷地区の再生プロジェクトに協力しながら、住民の方を支援するプロジェクトに取り組んだ。さらに、定番の活動として、高齢者と、子どもたちを対にした活動を実施した。

2 プロジェクト

a. 鹿島・松が谷再生プロジェクト

八王子市都市計画課主催の「かしまつ Re:Live　鹿島・松が谷地域のまちをつかうための実証実験」(10 月 21 日 ～10 月 24 日) に参加した。私たちのプロジェクトは 10 月 22 日、23 日の 2 日間参加した。実施した内容は、①松が谷中学校の協力を得て中学 2 年生とその保護者アンケート結果の展示、②当日ブースに来て頂いた方の写真を撮り、その写真にこの地域への想いを記入していただいた。当日作製したのが右図の「かしまつの樹」である。これには富士フィルム(株)の協力を得てチェキ 20 台をお借りすることができた。

中学生を対象にアンケートを実施したのも若い人たちの視点を取り入れたまちづくりが必要と考えた。この街の良さについては、「自然や緑が多い」というのが一番に中学生ばかりでなく大人も同様であった。40 年が経過して街自体が森の中にあるような地区となっている。しかし、最大のメリットがデメリットにもなり「防犯」「見通しが悪い」なども指摘されている。また、スーパー撤退以降買い物環境に課題が残されていることがわかる。居住意識や定住意識について、親子ともに同じように高い傾向が読み取ることができた。

b. 子どもの居場所プロジェクト：寺子屋

多摩キャンバス周辺の八王子市立松木小学校、長池小学校で月に 1 回程度土曜に学校の教室や体育館を借りて子どもの活動を支援する寺子屋活動を実施した。寺子屋の活動内容としては下表のように寺子屋学習教室（漢字検定)、ダンス、綿棒アート、プラ板、万華鏡教室等を実施した。11 月には大妻女子大学のバルーンアートサークルの「ばろん。」にも参加してもらった。その集大成として 3 月 19 日(土)に堀之内こぶし緑地でイベントを行い、参加した。下の写真はシャボン玉と万華鏡づくりです。

表　寺子屋での活動実績

7 月 3 日	プラ板、NiziU を踊ろう
10 月 16 日	漢字検定摸擬試験
11 月 20 日	バルーンアート
12 月 11 日	万華鏡づくり、走り方教室
1 月 15 日	アートワーク　めん棒アート
2 月 19 日	缶バッチ
3 月 19 日	万華鏡、「ウクライナに平和の鶴を」

写真　3 月 19 日イベントでの万華鏡づくりとシャボン玉

c. 高齢者の居場所づくり：どんぐりマルシェ

高齢者の居場所づくりでは、高齢者サロンづくりに参加した。しかし、サロンづくりの方は、今年は感染症の 2 年目の流行と第 5 波のデルタ株の感染拡大により、多くの高齢者サロンは実質的には中止となった。しかし、11 月頃から再開し始めて、ボッチャを行った。ボッチャはパラスポーツの 1 種であるが、障がい者スポーツとしてだけでなく、老若男女誰でも、障害の有無を超えて楽しめるユニバーサルスポーツとしてボッチャがオリンピックのレガシーとして定着してほしいと願って取り組んでいる。11 月 10 日、12 月 22 日、に実施したボッチャ体験会では、高齢者サロンの方がボッチャを楽しまれました。それ以降は第 6 波の感染拡大により中断した。3 月から再開し、東京オリンピックのレガシーとしてのボッチャを通じて居場所づくりを今後も継続したい。次年度は、高齢者の居場所と子どもたちの居場所のコラボに挑戦したいと考えている。

写真　高齢者サロンでのボッチャ

d. 結び

八王子市内のニュータウン地区もまち開きから 40 年を経過している。少子高齢化が進行していることから子どもと高齢者の活動を支援している。今後は、高齢者の活動とこどもの活動を結びつける活動を手がけていきたいと考えている。

謝辞　学生達にこのような地域社会で、他の団体とのコラボレーションを通じて、子どもや大人にかかわる機会を与えて頂いた「大妻女子大学地域連携プロジェクト」に感謝申し上げる。

みんなで防災大作戦！～防災を日常に～

堀　洋元　准教授
（人間関係学部　人間関係学科　社会・臨床心理学専攻）

本プロジェクトは、ゼミ学生が地域の方々と連携して行う出前防災講座として始まり、2016 年度からの継続で今年度は 6 年目を迎えた。

1 年目は「女子大学生の視点を活かした出前防災講座」というプロジェクトテーマで多摩市総合福祉センター、多摩市社会福祉協議会と連携して活動した。その成果は、多摩市総合福祉センターで開催された福祉大会において「女子大生による出前防災講座～大妻女子大学のゼミ生が独自の視点から考えた体験型の防災講座！」として行われた。2 年目は「学生の視点と地域のニーズを活かした出前防災講座」として多摩市総合福祉センター、多摩市社会福祉協議会と連携し、地域住民への事前アンケート調査をふまえて実施した。その成果は、福祉フェスタ 2017（多摩市総合福祉センターで開催）において「今日からできる 5 つの防災対策」として行われた。3 年目は「唐木田発：学生と地域でコラボする体験型防災講座」として、多摩市社会福祉協議会、ほっとネットしょうぶ（唐木田・中沢・山王下等地区地域福祉推進委員会）の有志と連携して活動した。その成果は、大妻多摩祭（大妻女子大学多摩キャンパスで開催）の展示企画のひとつとして、体験型防災講座を行った。4 年目は「体験から学ぶ防災～防災と言わない防災を目指して～」として、昨年度に引き続き多摩市社会福祉協議会、ほっとネットしょうぶ有志と連携して活動を行った。5 年目は「“防災と言わない防災”の実現に向けた私たちのチャレンジ」として、コロナ禍で活動が制限される中、多摩市 ONLINE 文化祭にエントリーして、日常における防災の取り組みについて発信する機会を得た。今年度もコロナ禍が続く中、専門的な学びを活かした取り組みについて報告する（Figure）。

Figure 新メンバーのゼミ 3 年生

〔目的〕

プロジェクト活動 6 年目である今年度は、防災をキーワードにさまざまな体験学習を行い、その体験をもとにイベントの企画・立案から運営・実施に取り組むことで、ゼミ学生が主体的に学び、実践する力を身につける場となるだけでなく、個々人の防災に関する知識や体験を自身の今後のキャリアに活かしたり防災を日常の一部に近づけることを目指した。今年度のタイトルは主題を 3 年生が命名し、それを踏まえて 4 年生が副題を命名した。

〔プロジェクトの概要〕

1. 防災ゲームに役立つアイデア収集のためのオンラインイベント参加

取り組みたいテーマとしてあげられた、防災に関するゲームやクイズに関する実施事例を収集・体験するため、『防災クイズ＆ゲーム Day2021』（主催：一般社団法人防災教育普及協会ほか）オンラインセッションに参加した。ゼミを代表して参加したメンバーがセッション 1 からセッション 3 まで各オンラインルームに分かれ、ゲームやクイズに参加しディスカッションを行った。オンラインセッション終了後に担当者間で防災ゲームを用いたイベント企画の準備および今後の取り組みについて話し合いを行った。

2. オンラインでの防災食体験とレビュー

緊急事態宣言下のため、当初夏休み期間に対面で実施予定だった防災食レビューを繰り下げ、オンラインで実施した。その際、近年の豪雨災害時に行われる分散避難を想定し、自宅と大学に分かれて防災食を試食した。作り方やおいしさの評価などについて項目を作成しGoogleフォームを使い回答、収集した。これらの試食評価データを蓄積して地域に向けた防災講座などで発信していく貴重な機会となった。

3. 地域住民対象の防災講座への参加と地域の方々との交流

ほっとネットしょうぶ（唐木田・中沢・山王下等地区地域福祉推進委員会）およびふれあいトムとも（鶴牧・落合・南野地域福祉推進委員会）の各定例会で防災講座を実施した。大妻女子大学との連携講座「防災について」の講演およびグループワークを行った。グループワークでは学生がファシリテーターとなり、地域の方々にとって気がかりなこと、防災ゼミでの取り組みに関する意見の収集を行い班ごとの発表を行った。今回得られた意見やニーズを参考にして、地域の方々に向けての成果報告や提案を考える非常に貴重な機会となった。

4. 震災語り部による「あのとき体験したこと」から学び、語り合う

宮城県・南三陸町観光協会による震災学習プログラム『震災語り部講話・オンライン』を活用し、震災語り部による講話を行った。東日本大震災での避難所生活の様子や体験した苦労、発生したトラブルやその解決方法について、避難所生活を送った被災者としての立場からさまざまなエピソードを語っていただいた。質疑応答の時間では、当時小学校高学年だった学生たちによる質問があり、地域や被災程度は違いながらも「あのとき体験したこと」から学び、語り合う有意義な機会となった。

5. 学外防災施設での災害対応に関する体験学習

当初は活動の初期に実施予定だったが、コロナ禍による活動制限のため年度末に学外防災施設（そなエリア東京）にある以下の施設で体験学習および見学を行った。施設内では首都直下地震を想定した災害対応を学んだり、防災に役立つアイデアやツールを見学する機会を得た。

〔プロジェクトの効果と今後の展望〕

コロナ禍において十分な活動ができなかったものの、できる限りの環境で工夫し活動を遂行することができた。

大学生と地域の方々が連携することによって、地域防災への取り組みの活性化が期待できる。今回の防災講座では、大学周辺にある地域特性の異なる方々からいただいたコメントがグループワークやアンケート回答から得られ、より良い取り組みの目標を得ることができた。

1 年間にわたる活動の最後にこれらプロジェクト活動に関するふりかえりを行い、防災ゼミでの学びを学生自身の進路やライフキャリアに活かすことができた。防災を一から学んでいく中で、実際に役に立つこと、より良くするための工夫を創造し実践することで、各自の進路に向けて防災の視点から考えること、また、防災と心理学との接点を考える機会となった。このような学びを継続することで、専門的な学びを応用できるだけでなく、学生同士でのチームワークが醸成され、個々にリーダーシップを発揮する機会を得て、主体的な学びを促進する効果が得られた。

今年度は叶わなかったが、防災ゼミ OG に対して体験型防災ワークショップを行うことで、社会人や母親からみた評価を得ることができ、新たな気づきの芽生えが期待できる。さらにその副次的効果として、参加者同士がゼミとしての成長を感じ取る稀有な機会となることも期待できるであろう。

からきだ匠(たくみ)カフェ～地域がつながる場所～

八城　薫　准教授
（人間関係学部　人間関係学科　社会・臨床心理学専攻）

多摩キャンパス（唐木田）周辺は病院、福祉施設、教育施設など様々な施設が存在し、身体や心に不安を抱えても安心して暮らすことのできる環境が整っています。そこで働く専門家（匠）集団が連携して吸引役となり、日頃から地域の様々な属性、世代の方々と繋がるような居場所づくりをすることで、いざという時に助け合えるような地域でありたい。そんな想いから 2017 年度 4 月、あい介護老人保健施設、社会福祉法人 楽友会、多摩市社会福祉協議会の方々との連携で活動をスタートさせ、このプロジェクト“からきだ匠カフェ～地域がつながる場所～”が生まれました。

“匠カフェ”の『匠』には、もう一つの大切な意味があります。それは「誰もが何らかの匠である」ということです。匠カフェでは、こちらが企画や情報を提供してもらうのではなく、みんなでそれぞれの匠的な才能を持ち寄って、「〇〇の匠」としてつながろうというコンセプトがあります。「〇〇の匠」に入れる言葉は、特殊な技能といったことに限らず、「つながりの匠」「女子力高めの匠」「スマイルの匠」「認知症支援の匠」「けん玉の匠」「日本舞踊の匠」「タティングの匠」などなど自分の得意なことや好きなもの、趣味など何でもよいのです。

活動は、毎月第 4 水曜日の 14 時から唐木田駅近くのピザと文具のお店 “Planet Café（プラネット カフェ）”さんの場所をご提供いただいて開催しています。新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言などもあり、8 月・9 月は実施することができませんでしたが、10 月からは感染状況を見て、場合によっては zoom と対面のハイブリッドで活動を再開しました。ハイブリッド開催のお陰で、オンライン会議の経験のない地域の年配の方に学生が zoom の使い方を教える交流も生まれましたし、日頃は交流できない介護施設内で過ごしている方々と交流が出来るといった新しい展開もありました。

お子様からお年寄りまで、様々な方々が一緒に楽しむ場所・空間として、また「共生社会」の実現に向けた本学学生の実践の場として、これからも楽しく活動を続けていきたいと思っています。

＜令和３年度の活動内容＞

6 月 23 日（水）コロナ禍だけど…認知症のこと気になりませんか？
～これって先生に診てもらった方がいいの？（オンライン）
7 月 28 日（水）緊急事態宣言中によりオンライン（zoom）で座談会
＝8 月・9 月は中止＝
10 月 27 日（水）メイクセラピー ～なりたい自分になるワンポイントアドバイス
11 月 24 日（水）もしバナゲーム ～もしも、あなたがあと半年の命だったとしたら…？
12 月 22 日（水）クリスマスのオーナメントづくり
1 月 26 日（水）新年会（対面・オンラインのハイブリッド開催）
2 月 16 日（水）大妻生企画 ～オンライン クイズ大会（多摩地域ネタ多！）
3 月 23 日（水）大妻生企画 ～心と身体のエクササイズ（座ったままできるストレッチ体操）
※上記の企画実施のために、毎月 1 回程度で企画会議を行っています。

次ページでは、「匠のチラシ」が制作してくれる素敵な活動案内チラシの一部を紹介します。

地域がつながる場所
からきだ匠カフェ 2021
主催： あい介護老人保健施設
社会福祉法人 楽友会
共催： 大妻女子大学
毎月第4水曜日 14:00～16:00
日頃の発表の場としてもご利用ください。
いろんな発表者募集中！
元気になれる
メイクセラピー
10 /27 (水)14:00～15:30
なりたい自分になる
メイクのワンポイントアドバイス
☆持ち物☆眉ずみ・鏡・アイシャドウ
※感染の状況によっては延期、
中止となる場合があります。
CAFE AND STATIONERY
Planet
OPEN·10:00
PIZZA·11:00
CLOSE·19:00

地域がつながる場所
からきだ匠カフェ 2021
主催： あい介護老人保健施設
社会福祉法人 楽友会
共催： 大妻女子大学
毎月第4水曜日 14:00～16:00
日頃の発表の場としてもご利用ください。
いろんな発表者募集中！
もしバナゲーム
11月24日(水)14:00～15:30
もしも、あなたがあと半年の命だったとしたら・・・？
普段は敬遠されがちな「縁起でもない」話題を
一緒に考え、話し合いましょう。
※感染の状況によっては延期、
中止となる場合があります。
CAFE AND STATIONERY
instagram
匠
カフェ
since2017 from Kitchen Tis

10月の匠カフェ
元気になれるメイクセラピー
～なりたい自分になるメイクのワンポイントアドバイス～
緊急事態宣言中はオンラインでの開催ということで、約半年ぶりのプラネットカフェ開催となりました。今回4月から企画していたメイクセラピーを無事開催することが出来てとても嬉しく思います。
マスクメイクで重要な眉毛・アイメイクについて、それぞれのなりたいイメージを聴取しながらメイクを施しました。メイクをしたことがない方、眉毛メイクに対して苦手意識がある方、自宅あるメイク道具の活用方法が分からない方、ZOOMメイクにご興味がある方など様々な方がいて、周囲の方と一緒に考えながら、それぞれの悩み解決を目指してお手伝いさせて頂きました。
みなさんメイクを施すことで表情が明るくなり、メイクを通じてお話が盛り上がり、楽しく明るい雰囲気で行えたことが何より嬉しかったです。最終的にメイクを受けている方のまわりに皆さん集まって見学されるような光景も伺えました。
これからも様々な方法で、多摩地域の皆様の繋がりが広がるよう、一緒に考えていきたいです。
楽しい時間をありがとうございました。

11月の匠カフェ
11月は「もしバナゲーム」を使って人生会議をしました。もしバナゲームは在宅・緩和ケアの医師が開発したカードゲームで「もしも、自分が余命半年だったら」という設定でカードに書かれている質問について考え、それをみんなで共有するというものです。カードに書かれている質問は「あらかじめ葬儀の準備をしておく」「機器につながれていない」「いい人生だったと思える」といった普段考えない“もしも”の時に自分がどうしたいのかを考えさせられるものばかり。今回は4人1組になって行いました。自分の考えを同じグループの人たちに発表して話し合うことで、人それぞれの考えや価値観があると改めて気づかされました。最終的にはゲームの枠を超えて、いままでの人生を振り返ったり、家族観を語り合ったりと大変盛り上がりました。
普段なんとなく頭では考えている自分の事ですが、みんなの前で発表するとなると言葉という形にしなければなりません。その作業によって頭の中の考えを整理することができます。参加者からも家族や大切な人と“もしも”について話し合ってみるとの声が聞かれました。「もしバナゲーム」は匠カフェで定期的にやりたいと思います。
匠
カフェ
017 from Kitchen Tis

地域がつながる場所
からきだ匠カフェ 2022
毎月第４水曜日 14:00～16:00
日頃の発表の場としてもご利用ください。
いろんな発表者募集中！
大妻生企画！
2月16日(水)14:00～15:30
オンラインクイズ大会
3月23日(水)14:00～15:30
身体を使った
オンラインエクササイズ
※感染の状況によっては延期、
中止となる場合があります。
連絡先
多摩センター地域包括支援センター
電話：０４２－３７６－２９４１
主催： あい介護老人保健施設
社会福祉法人 楽友会
共催： 大妻女子大学
CAFE AND STATIONERY
Planet
OPEN·10:00
PIZZA·11:00
CLOSE·19:00
体調の悪い方は参加をお控えください。
当日はマスクの着用をお願いいたします。
会場では手指のアルコール消毒にご協力ください。
instagram
ドリンク1杯 ￥300～(税別)
Planet Cafe
090－6648－8481
多摩市落合2－25－2
匠
カフェ
since2017 from Kitchen Tis

1月の匠カフェ
今年の抱負 一文字
1月は「新年会」ということで、今年の抱負を一文字に表現し、その意味するところをそれぞれ説明してもらい、１つのポスターにまとめました（写真の通り）。それぞれの個性と思いが詰まったこちらのポスターはプラネットカフェにて掲示してもらっていますので、カフェやランチに行った際には是非実物をご覧ください。そして、今年の12月の匠カフェでは、こちらの抱負の成果があったか、実現できたか、をまた皆さんで共有したいと思います。
また1月はオミクロン株の感染爆発により、オンラインとカフェでのハイブリッド開催となりましたので、抱負の共有の後は久しぶりに「モノしりとり」で盛り上がりました。最後は「ス」の付くモノとなり、お後よろしく「プラネットカフェ」で締めくくりました（笑）
からきだ匠カフェの歌 ～笑顔の咲くところ～
作詞・作曲：田中匠作
からきだの道に 百本シダレ 桜咲くこの街に
はじまる物語 からきだ通りに 咲くハナミズキ
唐木田のこの店に 集まる昼下がり 歳のせいだとか
病気のせいだとか そんなことは忘れて 笑顔咲くところ
からきだ匠カフェ だれもが匠だね 笑顔と歌で広がってく
世代を超えて 僕らをつなげる 架け橋さ

持続可能な食を支える食育推進プロジェクト

堀口　美恵子　教授
（短期大学部　家政科　食物栄養専攻）

【目的】

栄養・食・健康に関する問題は、SDGsの各目標に影響を及ぼす重要な要素である。栄養・食を通じて人々の健康と幸福に貢献する栄養士を養成する本専攻では、多世代に対する様々な食育を通じた社会貢献活動を積極的に実践してきた。本プロジェクトでは、SDGs達成につなげる食育活動をコロナ禍における新たな日常で取り組むことにより、区民の食・健康・環境に対する意識の向上を通じて心身の健康づくりに貢献することを目的とした。また本プロジェクトでは、教員、学生、卒業生、及び、世羅町と千代田区の協力者が連携し、本学での学びや各専門領域から創出される成果を社会に還元することにより、本学の人資源を地域の活性化につなげることも目指した。更に、本学名誉教授の生田氏より「マルチメディアを扱える最新のドットコードを用いた教材」に関する指導を受けて効果的な音声媒体を作成することも目的とした。

【方法】

代表者が今まで培ってきた世羅町[*1]や千代田区[*2]との関わりを活かし、栄養士を目指す本専攻の学生が卒業生と連携しながら、持続可能な食を支える食育推進に向けた取り組みを行った。

*1　世羅町役場、世羅高等学校農業経営科、世羅茶・世羅米・世羅梨生産者、甲山いきいき村など

*2　千代田区地域コミュニティ醸成支援事業「ちよだコミュニティラボ」、千代田区社会福祉協議会「食から広がる親子ふれあいサロン」、一般社団法人千代田エコシステム推進協議会など

【主な活動内容】

1)　広島県世羅郡世羅町との連携活動

世羅町役場と神田錦町の「ちよだいちば」をつなぎ、世羅町の魅力を発信する物産展を「ちよだいちば」で実施した（7 月 28 日～8 月 31 日）。販売した特産品については、本学でレシピ考案や官能評価を行い、世羅町への情報提供を通じて 6 次産業化支援につなげた。

世羅町と本専攻との「オンライン交流会～持続可能な食の推進に向けた連携を目指して～」を実施した（11 月 25 日）。世羅町特産品（世羅米・世羅茶・世羅梨）生産者と世羅高等学校農業経営科生徒から、環境保全への各取り組みについて発表を受けると共に、本専攻からは今までに実施した世羅町との連携活動事例を紹介した。その際、規格外などの理由で廃棄処分されてしまう世羅梨が年間約 10 t にも及ぶことを伺い、直ぐに世羅梨の有効利用にも取り組むこととした。冬に収穫される「新雪梨」を本学学生食堂コタカフェの他、地域の高齢者施設や子ども食堂でのメニューに取り入れて頂いた。その他、卒業生や学生が考案した様々な世羅梨レシピについては、世羅高等学校の生徒が考案するレシピと共に、レシピ集を作成する予定である。

また、TABLE FOR TWO が主催する世界食糧デー記念「おにぎりアクション 2021（おにぎりの写真を投稿することで貧困地域に暮らす子ども達に給食をプレゼントできる取り組み）」に参加し、世界の食糧問題について主体的に学ぶことができた。米は世羅町のダルマガエル米（絶滅が危惧されているダルマガエルのおたまじゃくしを水田で育てながら無農薬で栽培）の玄米や胚芽米を、具としては

食糧自給率にも配慮し、国産の桜エビ、ちりめんじゃこ、鮭、和胡桃、炒り糠、おからの他、手作り味噌などの和食材を用いた。「おにぎりアクション」への参加を通じ、国産食材を活用する和食文化の保護・継承活動は、生物多様性の保全にもつながる重要な試みであることが確認された。

なお、上記活動は中国新聞で紹介された（1 月 30 日）。今後も世羅町の農業・環境・地域資源に着目した食育を、千代田区から発信する予定である。

2)　千代田区との連携活動

「千代田こどもの芸術祭～千代田こども縁日～」に運営協力者として参加した（3月6日：万世橋区民館）。「魚・米・海苔に関するクイズ」と「エコなアクセサリー（くちなし染色コサージュ、米紙袋ストラップなど）」のブースを担当し、和食文化とSDGsとの関連について参加親子へ楽しく伝えることができた。なお、子どもスタッフと共に作成した「寿司ネタの魚を説明する音声媒体」は、新奇な食育媒体として大変好評であった。また、2月11日に日比谷図書文化館で行った「千代田こどもの芸術祭～ロバの音楽座によるらくがきコンサート～」では、東日本大震災復興支援活動「三陸の和ぐるみプロジェクト」によって和ぐるみ殻を提供し、音のらくがきワークショップで活用頂いた。

「ちよだコミュニティ ラボライブ！2022～千代田で新しいことを共創しよう～」に実行委員として参加した（3月12日：オンライン）。区内登録団体が分野・立場を超えて交流することを目的としたラボライブにおいて、本プロジェクトの成果を紹介した内容は高評価を受け、産官学民連携を目指した新規なアクションへとつなげることもできた。

その他、「子育て支援グループへの食育活動（8月28日）」、「オンラインでの食育体験交流会（2月10日・3月27日）」も実施し、食文化や環境を意識した持続可能な社会の実現に向けた食育を推進することができた。

【まとめ】

新たな日常や SDGs の観点から、世羅町や千代田区と連携した食育活動を実施した。栄養士の立場から世羅町の SDGs を原動力とした地方創生について協力すると共に、千代田区民の食・健康・環境に対する意識の向上を通じて心身の健康づくりに貢献することができた。また、卒業生と連携して行った本活動は、学生のコミュニケーション能力や学習意欲の向上、キャリアデザインの構築につなげることができたものと思われる。

①　「世羅梨レシピ」の例（ローストビーフのタレ・ポテトサラダ・ピクルスに世羅梨を使用）

②　「おにぎりアクション」への参加（世羅町のダルマガエル米・手作り味噌・おから・炒り糠などを使用）

③　「千代田こどもの芸術祭」で用いた音声媒体（音声ペンとお寿司フードモデル）

地域の多世代がつながる味噌作りプロジェクト

富永　暁子　准教授
（短期大学部　家政科　食物栄養専攻）

【概要】

本プロジェクトでは千代田区近隣住民および在勤者を対象に、食の循環を意識してもらうことを目的に大豆の栽培・収穫からみそ作りまでの体験プログラムを提供する。すでに食物栄養専攻では学生を対象としたみそ作り講座を 7 年前から実施し、日本の食文化の継承の観点からも有効であることを家政系紀要で報告している。今回のプロジェクトの実施にあたり、大豆の栽培･収穫に関しては地域団体の協力を得て実施し、学内で仕込んで熟成したみそは地域の児童福祉施設や高齢者施設等で利用してもらうなどを新たな試みとした地域連携をしていく計画である。単にみそを作るだけでなく、本学の学生がリーダーとなって、地域の方とともに手作りみそ作りをすることで地域が活性化し､みそ作りを通して地域の多世代がつながり、食や健康に対する意識の向上に結び付けられるようなプロジェクトになることを目指した。

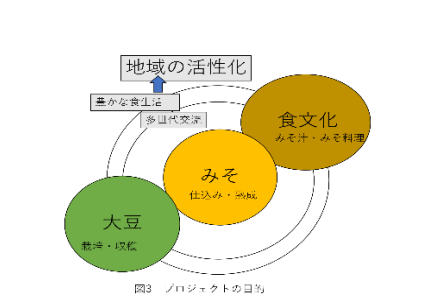


図3　プロジェクトの目的

具体的には､「味噌」「大豆」「食文化」をキーワードとして食育の観点から和食の大切さを伝え、家庭や地域での和食の継承を通して､豊かな食生活を考えるきっかけを作り､知識や実践力だけでなく、多世代交流により地域が活性化することを目的とした。

【プロジェクトの活動内容】

1. 大豆の栽培・収穫体験［7月～11月　学内ハーブ園］

近隣の専門家から助言を受け、7 月に 8 種類の大豆の種まきを行い、発芽後学内のハーブ園の一角に定植をし、その後観察記録を付けた。途中枯れてしまったものや鳥に食べられてしまった苗もあり、定植した苗のうち、枝豆にまで成長できた 1 割弱であった。残った品種は青大豆と赤大豆の 2 品種である。原因として定植の時期が遅かったこと、土の状態が苗に合っていなかった可能性があげられる。また鳥よけネットをきちんと設置しなかったこともあげられる。9 月下旬の枝豆の段階で、一部収穫して試食した。収穫した枝豆はやや小粒であったが、うま味が強くほんのり甘味を感じた。その後 11 月にさやが乾燥し、大豆になったところで全てを収穫した

種まき

栽培

枝豆の収穫

大豆の収穫

2. 手作りみそ講座①［10月30日（土）13：30～15：00　zoomを利用したオンライン開催］

今回の手作りみそ講座は区内の小学生の親子と限定し、申し込みは5組10人であった。試食用のみそは事前に参加者に受け取りにきてもらった。当日は大豆の栽培から味噌の作り方までをPowerPointを使って説明した。小学生に合わせた内容にし、「大豆の栽培と収穫レポート」「大豆から作られる食

べものクイズ」「千代田区内のみそ屋さんのお話（動画）」「いろいろなみその特徴について（4種類のみその食べ比べ）」「手作りみその作り方とみそ料理の紹介」について、それぞれ学生と協力して資料を作成した。少人数であったため、オンライン上でもある程度交流を深めることができた。またみその食べ比べはとても楽しく、次回のみそ作りも楽しみにしているという感想が多くみられた。近隣の高齢者施設のデイサービス利用者は、食べ比べ以外の内容について参加したが、むかしみそ作りをしたことを懐かしく思い出している人もいた。

みその受け取り

食べ比べ用のみそ

学生スタッフの様子

オンライン上の様子

3. 手作りみそ講座②［1月29日（土）14：00～16：00　zoomを利用したオンライン開催］

今回は親子に限定せずに、区内在住・在勤者を対象としたが、申し込み3日目で募集人員に達した。それ以降の申込者はキャンセル待ち扱いとなり、最終的に参加希望者は100名近くなった。先着により決定した参加者とスタッフ合わせて約40名がみそ作りに参加した。募集の段階では、対面で実施予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を考え、開催10日前にオンライン開催に変更した。今回みそ作りに使用した材料はすべて千代田区内の三河屋綾部商店で手に入れ、大豆はあらかじめ学内で下ゆでし、真空包装したものを準備し、事前に本学に取りに来てもらった。当日は作り方の説明を受けた後、6グループに分かれ、スタッフの進行に合わせてみそ作りをし、その後全員でみそに関する食育クイズによって交流を行った。1回目の講座と同様、高齢者施設の利用者にも参加してもらった。オンラインのため多世代交流に限界があったが、参加者はオンラインでも十分に楽しめたという感想が多くみられた。

【今度にむけて】

参加者アンケートの集計結果から、参加者は概ね楽しく講座を受講し、今後も本学での味噌作り及び味噌を通しての多世代交流を望んでいることが明らかとなった。また次年度のみそ汁交流会の開催にむけて、手作りみそ講座で作ったみそとは異なる種類の味噌を学生と仕込んだ。今回学内ハーブ園で栽培した大豆は収穫量が少なく、今回の味噌作りの材料とすることができなかったため、今後は栽培方法について検討していきたい。

本来の目的であった多世代交流については、オンラインでの実施だったため、対面による方法に比べると難しさがあったが、オンラインの手法を活用したことで、コロナ禍で外出に制限のある高齢者施設の方々が、千代田区内に住む親子や本学学生たちと画面を通して触れ合うことができ、多世代をつなぐ新たな食育のあり方を提案できたと思われる。本プロジェクトの取り組みは、「こどもの栄養」5月号の情報すくらっぷ（p14～p17）に掲載された。

プロジェクト構成員：堀口美恵子、小野友紀、石井恵子、小林雪子、ワゲラ久美子、食物栄養専攻1．2年生の学生ほか

地域の協力者：みそ材料　三河屋綾部商店（外神田）、農園づくり　フラワーショップ花省（九段南）

高齢者施設　いきいきプラザ一番町（一番町）

令和 3 年度 地域貢献プロジェクト報告

令和 3 年度 地域貢献プロジェクト概要

1. 趣旨

広く地域のみなさまへ本学の教育と研究成果を還元し、みなさまの多様な学習ニーズに応えるとともに、地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動の推進を図ることを目的に、その活動経費を補助する。

2. 対象テーマ

本学の教育と研究成果を地域社会に還元し、地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動。分野は不問。

3. 応募資格

大妻女子大学の教職員(個人又はグループ)又は教職員と学生（大学院生・短大生を含む）で構成するグループ。

応募するグループは、下記 4 つの要件をすべて満たしていること。

①本学の教育と研究成果を地域社会に還元する活動
②地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動
③千代田、多摩、中野、嵐山等で行われる、近隣住民等を対象とした活動
④在学生が主体的に参加する活動又は成果を在学生の教育に反映できる活動

4. プロジェクト支援期間

令和 3 年 5 月 13 日(木)～令和 4 年 3 月 31 日(木)

5. 支援額及び採択件数

支援額：1 プロジェクトにつき 30 万円を上限
採択数：数件程度

令和 3 年度 地域貢献プロジェクト採択一覧

プロジェクト名	代表者
健康的な女性のための「食・運動・医」オンライン講座の開設	川口　美喜子
小学校の読書活動推進への貢献を図る学生ブックソムリエの展開	樺山　敏郎

健康的な女性のための「食・運動・医」オンライン講座の開設

川口　美喜子　教授
(家政学部　食物学科)

【本プロジェクトの目的と概要】

健康的な妊娠・出産という一連の過程は人生の中で女性とそのパートナーにとって重要なできごとである。日本は不妊大国といわれるほど妊娠しにくい人が増え、不規則な生活習慣になっている女性が増えていることが「妊娠する能力」を低下させる要因と考えられている。将来の妊娠を考えながら若い女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合う「妊娠前の健康管理」は、プレコンセプションケアの概念に基づき支援されている。今年度も「地域貢献」のサポートを頂き、継続してこの概念に基づく妊娠のための「食・運動・医療」の教育を実施した。今年度の支援内容は、これまでの参加者の評価から特に関心の高かった「健康的な食事と運動」「妊娠・出産のための食生活と運動」「女子大生の月経にまつわる諸健康問題」について実施した。コロナ禍における新しい情報発信のあり方としてデジタルツールを活用し、千代田区在住者、勤務者や学生など、情報と支援を必要とする多くの方に身体的健康の保持および増進の啓発、そのための効果的な媒体作成をすることを目的とした。

【活動スケジュール】

9 月～　プレコンセプションケアに関した映像、オンデマンド配信を実施
　　動画視聴前後でアンケートを実施しプレコンセプションケアの関心や理解度を確認
3 月～　メニュー集改訂のための試作、調理および撮影
　　改訂版メニュー集の作成、校正、印刷発注

【内容】

予定していた「妊娠・出産のための食生活と運動」「女子大生の月経にまつわる諸健康問題」の講義配信について、昨年の新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大により、担当者の日程確保が困難となり、実施が困難となった。そのため、実施内容は、「健康的な食事」「妊娠・出産のための食生活」に特化した。動画は健康的な妊娠出産に向けた体作り（プレコンセプションケア）についての解説と、メニュー集とリンクした調理のポイントや、時短調理法などをまとめた。動画視聴前後にアンケート調査を行い、プレコンセプションケアへの関心、理解を確認、アンケート結果に沿って、改訂版メニュー集の作成を行った。改訂版メニュー集には調理を簡単に行うことができる冷凍食品や、缶詰、コンビニ商品などを利用したメニューや、世界のレシピを取り入れた楽しい食事メニューを掲載した。改訂版メニュー集は 500 部印刷し、学生、千代田区在住者、勤務者へ配布を行った。

改訂版メニュー集掲載　タイ料理
エビとじゃがいもマヨマスタード和え

改訂版メニュー集掲載 アメリカ料理
オートミールを使ったハンバーグ

改訂版メニュー集掲載
時短料理（ツナマヨ和風パスタ）

改訂版メニュー集掲載
時短料理（具だくさんつくね）

改訂版メニュー集に追加したメニューの一部

【まとめ】

動画視聴前後のアンケートから、プレコンセプションへの関心は高く「妊娠・出産のための食生活」についての正しい情報や妊娠を希望する男女と学生が多いことが明らかとなった。規則正しい食生活の推進においては、食事や調理に時間をかけられる人が少ないことが分かった。本プロジェクトで気軽に視聴できる動画の配信とメニュー集の配布は、プレコンセプションケアに関しての最新の情報提供食とプレコンセプションケアの啓発、食事や調理、調理時間の問題点を改善する具体的な取組み方の情報提供として有効であった。健全な妊娠・出産を目指すためには、女性やカップルが自分たちそして、パートナーの生活や健康に向き合うことが重要である。本学食物学科の学生が、男女が健全な体を作るための意識改革について、学生の時から健康観の意識改善に取り組むことをテーマに支援を実践した。本学学生にとっては、食の専門家として妊活教育の実践を学ぶ場となった。

今後も継続して正しい知識の提供のための活動を行っていきたい。

アンケート調査結果

プレコンセプションケアの内容をオンデマンド配信後に実施

対象：女性18~24歳　50名
調査期間：令和3年9月～11月
実施：動画配信前後　2回　（**アンケート①**；動画配信前、**アンケート②**；動画配信、視聴後）

動画の構成

18分15秒の動画をYouTubeを用いて配信

［構　成］
1.レシピ集の見方
2.プレコンセプションケアとは
3.妊娠前から気をつけたいこと
4.昼食メニュー調理工程&
　　時短テクニック実践動画
5.まとめ

［動画内容の一部抜粋］

オンデマンド配信用画像（冷凍保存法）

朝食摂取頻度　意識の変化

［アンケート①］

40名

Q.朝食の摂取頻度			
毎日とっている	週4日以上	週1~3日	とっていない
24人	9人	6人	1人

［アンケート②］

①で毎日朝食を摂っていない16名

Q. 意識に変化について		
増やそうと思った	減らそうと思った	変化なし
11人	0人	5人

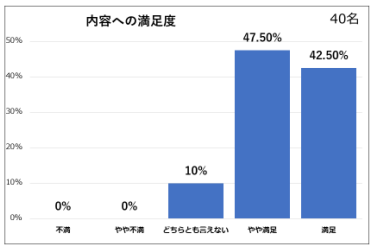
朝食欠食が週1日以上の者(16人)の内、
半数以上の者(11人)が動画視聴後では朝食を増やそうと思うと回答

動画の視聴により、朝食摂取頻度について対象者の意識に変化が見られた

3.若年女性の将来の妊娠への意識の変化
プレコンセプションケアの理解度

［アンケート②］

プレコンセプションケアを理解できたと回答した者は100%であった。



やや満足、満足と回答した者は9割（36人）

オンラインによる配信は、満足度が高かった

レシピ集と動画を用いてプレコンセプションケアの説明や妊娠前から気をつけたいことの情報を提供することにより、妊娠と健康・栄養について理解を促すことができたと考えられる。

プレコンセプションケアについての動画の視聴は、妊娠と向き合うきっかけを作ることができ妊娠に対する意識変化に影響を及ぼすことが示唆された。

小学校の読書活動推進への貢献を図る学生ブックソムリエの展開

樺山　敏郎　准教授
(家政学部　児童学科)

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、本学家政学部児童学科児童教育専攻の学生（2年次中心）が千代田区立麹町小学校の読書活動の推進に貢献しようとするものである。

実質的には、読書の秋という時機を捉えて同小学校を訪問し、学生がブックソムリエとなって、児童に対して本の紹介や推薦を行う。

1　プロジェクトの目的

児童の読書活動を活性化することは、児童自身の在り方や児童を取り巻くヒト・コト・モノに対する新たな知見を獲得し、これまでの見方や考え方を問い直すとともに、豊かな感性や情操を養うことにつながる。小学校の教員を目指す本学科児童教育の学生が実際に小学校の現場を訪れ、読書のよさや醍醐味を言葉で伝えることにより、その価値や意義を児童と共有する意義は大きい。

2　プロジェクトの内容

読書の秋という時機を捉えて千代田区立麹町小学校を訪問し、学生がブックソムリエとなり、児童に対して本の紹介や推薦を行う。ブックソムリエという用語は、一般化されてはいない。代表者が独自にネーミングしたもので、文字通り、本の紹介・推薦する活動である。単に本の粗筋や感想を伝えるだけでなく、相手とやり取りしながら、紹介・推薦する本の世界に巻き込み、相手が“読んでみたい”と思うように誘う活動である。取り上げる本については、小学校国語科教科書の文学的教材（昔話、民話、伝承、物語、ファンタジー、詩など）が書籍化（絵本化）されたもの、併せて国語科教科書の文学的教材と関連して紹介されている教育的価値が高いとされる本や絵本などを取り上げる。

3　活動の概要

2021年7月1日
☑本プロジェクトの目的や方法、活動の具体についてのガイダンスの実施
2021年7月～10月
☑関連図書の読書活動の展開
2021年8月6日・7日
☑ブックソムリエに係る先進的取組の情報収集（申請代表者）
2021年9月30日
☑ブックソムリエの具体的な進め方についてのガイダンスの実施
2021 年 10 月 21 日
☑ブックソムリエに向けての準備
2021年11月18日
☑千代田区立麹町小学校でブックソムリエ活動の実施
2021年1月
☑本プロジェクトのまとめ

4　活動の実際

2021 年 11 月 18 日　☑千代田区立麹町小学校（第 1、2、3 学年）でブックソムリエ活動の実施

子供の手にはブックメニュー

タブレットを活用して…

粗筋のカードも作って…

ペープサートで子供とやり取り

子供に感想を求める学生

最後に校長先生からエール

5　総括

活動を終えた、学生Ａ（リーダー）の感想である。

今回、本の面白さを伝える難しさ、子どもたちの興味の惹き方の難しさなどを知りました。読んだらそれだけで喜んでくれる子もいますし、始まる前はそういった反応を期待していましたが、実際は読む前から「これ知ってる！」「あっちの本の方が聞きたかった！」という反応が多かったです。特に私は教科書で習った内容だった上、戦争の話で長いので普通に読んだら読み終わりません。実際に読み聞かせてみて、終わらず初めの方は子どもたちにとってかなり退屈な時間になってしまったと思います。後半は全部読むのではなく、挿絵の話をしたり、逆に子どもたちに好きに読んでもらったりしていました。「これ見たことない！」と喜んでくれる子もいたのですが、本の良さを伝えられたのか、という不安と疑問が残っています。今後も子どもたちと関わる機会はあるので、もっとこうしたら良かったな…と思うところに注意して関わってみようと思いました。

小学校の教員を目指す本学科児童教育の学生が実際に小学校の現場を訪れ、読書のよさや醍醐味を言葉で伝えることにより、その価値や意義を児童と共有する意義は大きいものがあった。コロナ禍において児童の学びを保障するという観点から、教科書のみならず本と向き合うことの大切さを実感する機会の提供にもなった。

大妻さくらフェスティバル 2022

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、地域の活性化や地域文化の内外への発信を目的として、非対面方式で開催しました。「パンフレット表紙デザイン画」や「俳句大賞」の募集、「千代田学事業報告」「地域連携プロジェクト報告」などを中心にパンフレット掲載、「大妻嵐山中学高等学校ダンス部によるパフォーマンス」「博物館学芸員によるミニ講座」「大妻コタカ記念会生涯学習のご案内」を WEB で動画配信しました。

開催日：令和 4 年 3 月 26 日(土)

パンフレット表紙デザイン画

応募期間：令和 3 年 12 月 8 日(水)～令和 4 年 1 月 7 日(金)17:00
応募資格：小・中・高・大学生
応募総数：14 点
賞：上位 5 点を入選作品とする。
　1 位：表紙 1 面に掲載（賞状、図書カード 5 千円）
　2～5 位(4 点)：裏表紙 1/4 面に掲載（賞状、図書カード 3 千円）

俳句大賞

応募期間：令和 3 年 12 月 8 日(水)～令和 4 年 1 月 7(金)17:00
応募部門：小学生以下の部、中学・高校生の部、一般の部
応募テーマ：節分、星
応募総数：586 名　1,463 句（節分 615 句　星 793 句）
　<小学生以下の部>　応募人数 129 名 373 句（節分 144 句、星 229 句）
　<中学・高校生の部>　応募人数 199 名 364 句（節分 191 句、星 170 句）
　<一般の部>　応募人数 258 名 726 句（節分 280 句、星 394 句）
　※部門ごとの(　)内の句数は、審査対象外の句を除いています。
賞：理事長・学長賞（賞状、Amazon ギフト券 5 千円）全テーマ全部門から 6 名 、受賞者 5 名
　優秀賞（賞状、Amazon ギフト券 3 千円）各テーマ各部門から 3 名（計 18 名)、受賞者 16 名

動画配信

掲載期間：令和 4 年 3 月 26 日(土) ～令和 4 年 4 月 25 日(月)
大妻嵐山中学高等学校　ダンス部
大妻女子大学博物館　学芸員によるミニ講座
一般財団法人大妻コタカ記念会　生涯学習のご案内

業務報告

令和 3 年度の事業

1. 地域連携プロジェクト

大妻女子大学では、教職員・学生によって様々な地域連携活動が行われています。教職員のグループ又は教職員と学生のグループによる、学生の主体性や自立心が身に付く地域連携活動の一層の推進・発展を図ることを目的に、その活動経費を補助する「地域連携プロジェクト」が平成 25 年度から始まりました。

令和 3 年度は 10 件の申請中 10 件が採択されました。

応募受付	令和 3 年 5 月 13 日(木)～令和 3 年 6 月 8 日(火)12:00
選考結果通知	令和 3 年 6 月 14 日(月)
授与式、事務説明会	令和 3 年 6 月 19 日(土)
	※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から対面で行わず、文書開催としました。
プロジェクト支援	令和 3 年 5 月 13 日(木)～令和 4 年 3 月 31 日(木)
プロジェクト報告会	令和 4 年 3 月 26 日(土) (大妻さくらフェスティバル 2022)
	※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止しました。
実施報告書提出締切	令和 4 年 3 月 31 日(木)

2. 地域貢献プロジェクト

大妻女子大学では、様々な地域貢献活動が行われています。広く地域のみなさまへ本学の教育と研究成果を還元し、みなさまの多様な学習ニーズに応えるとともに、地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動の推進を図ることを目的に、その活動経費を補助する「地域貢献プロジェクト」が平成 26 年度から始まりました。

令和 3 年度は 3 件の申請中 2 件が採択されました。

応募受付	令和 3 年 5 月 13 日(木)～令和 3 年 6 月 8 日(火)12:00
選考結果通知	令和 3 年 6 月 14 日(月)
授与式、事務説明会	令和 3 年 6 月 19 日(土)
	※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から対面で行わず、文書開催としました。
プロジェクト支援	令和 3 年 5 月 13 日(木)～令和 4 年 3 月 31 日(木)
実施報告書提出締切	令和 4 年 3 月 31 日(木)

3. WEB サイトについて

地域連携推進センターの WEB サイトは、平成 25 年 6 月の運営委員会及び企画実行委員会で原案を提示して承認を得た後、同年 8 月から学内でコンテンツの制作を開始し、同年 11 月に一般公開し、当センターで随時更新・運用してきました。

なお、大妻女子大学の WEB サイトリニューアル(令和 3 年 4 月 1 日)に伴い、本センターの WEB サイトも統合されました。

4. 令和３年度 地域住民向け講座

(1)地域連携推進センター自主企画など

①【中止】大妻みちあそび

令和３年７月　※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

②【中止】浴衣着付け講座

令和３年７月　※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

③【中止】夏休み小学生講座 理科実験教室・工作教室

令和３年８月　※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

④先輩から後輩へのリレーメッセージ第２回

令和３年 10 月 22 日(金)～ WEB サイトにて動画配信

※中期計画の卒業生との連携企画のため、大妻コタカ記念会会長と意見交換の上実施。

5. 令和３年度 地域との交流事業

(1)チャリティコンサート

会場：大妻講堂

①【中止】パイプオルガンコンサート

令和３年５月 29 日(土)　※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

②【中止】クリスマスコンサート

令和３年 12 月 11 日(土)　※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

(2)【中止】地域の方との懇談会

令和３年６月 19 日(土)　※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

教職員、近隣町会・商店街振興組合役員及び千代田区職員の方等

(3)アダプト事業（千代田キャンパス近隣花植活動）

①大学周辺歩道内の花植枡へ地域住民と一緒に花植えを実施

令和３年６月 24 日(木)

学生・大学教職員約 130 名、地域住民・近隣企業及び千代田区職員の方等約 20 名

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、九段小学校児童約 400 名の参加は見合わせ。

②中高周辺歩道内の花植枡へ中高生徒と一緒に花植えを実施

令和３年６月 25 日(金)

大学教職員３名、中高生徒・教職員約 20 名

③大学周辺歩道内の花植枡へ地域住民と一緒に花植えを実施

令和３年 11 月 11 日(木)

学生・大学教職員約 130 名、九段小学校児童約 400 名、

地域住民・近隣企業及び千代田区職員の方等約 20 名

④九段幼稚園周辺歩道内の花植枡へ九段幼稚園園児と一緒に花植えを実施

令和３年 11 月 12 日(金)

九段幼稚園園児・教職員約 30 名、学生４名

⑤中高周辺歩道内の花植枡へ中高生徒と一緒に花植えを実施
令和 3 年 11 月 12 日(金)
大学教職員 3 名、中高生徒・教職員約 10 名

(4)お祭り参加
【中止】靖國神社みたままつり
令和 3 年 7 月　※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

(5)【中止】千代田区内一斉打ち水
令和 3 年 8 月　※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

6. その他

(1)広報用冊子作成（大妻タイムズ No.8、9）
本学の地域連携活動の周知を目的に、6 月に 1,700 部、12 月に 900 部発行。

(2)千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（以下「千代田区キャンパスコンソ」）
大妻女子大学、共立女子大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学の 5 大学が平成 30 年 4 月 1 日付けで包括協定を締結し活動を行っています。

①千代田区キャンパスコンソ運営委員会
令和 3 年 4 月 30 日(金)、5 月 28 日(金)、6 月 25 日(金)、7 月 30 日(金)、9 月 24 日(金)、10 月 29 日(金)、12 月 3 日(金)、令和 4 年 1 月 28 日(金) 、2 月 25 日(金)、3 月 18 日(金)
計 10 回

②千代田区キャンパスコンソ 5 大学企画委員会
各大学の副学長またはそれに準ずる者
令和 3 年 8 月 3 日(月)（オンライン開催）

③千代田区キャンパスコンソ人事交流
令和 3 年 8 月 6 日(金)、8 月 20 日(金)、計 2 回

④千代田学共同提案事業
「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究」

⑤私立大学等改革総合支援事業
令和 3 年度私立大学等改革総合支援事業のタイプ 3（プラットフォーム型）に申請し、大学・短大ともに採択されました。

⑥令和 3 年度大学間連携事業
共同公開講座「ちよだで学ぶ」(オンデマンド配信)
「我が国の公的年金保険についての理解のポイント」令和 3 年 8 月 2 日(月)～9 月 1 日(水)
「やわらかアタマで取り組む“防災”」令和 3 年 10 月 11 日(月)～10 月 31 日(日)
お野菜 mottainai プロジェクト　令和 3 年 9 月 11 日(土)（オンライン開催）

共同 FD・SD 研修会
「ICT を用いた遠隔授業の事例紹介と改善へ向けた取り組み」令和 3 年 10 月 27 日(水)

共同大学説明会　令和 3 年 8 月 11 日(水)

(3) 【中止】全学共通科目「地域文化理解 I」開講
地域連携推進センター事務部が世話窓口
期間：令和 3 年 9 月 6 日(月)～10 日(金)
講師：清水克彦非常勤講師
協力：JAL スカイ、東京ステーションホテル、文化放送
受講者：大妻女子大学及び短期大学部学生 16 名
京都女子大学学生 5 名
共立女子大学及び短期大学部学生 5 名
東京家政学院大学学生 5 名
二松学舎大学学生 4 名

(4) 【中止】全学共通科目「地域文化理解 II」開講
地域連携推進センター事務部が世話窓口
期間：令和 4 年 2 月 14 日(月)～18 日(金)
講師：三國清三非常勤講師
協力：ホテル･ドゥ･ミクニ、
服部栄養専門学校、国境なき料理団、三菱地所(株)、(株)タイアップ
受講者：大妻女子大学及び短期大学部学生 26 名
京都女子大学学生 6 名

(5) 千代田区内大学と千代田区の連携協力会議総会
令和 4 年 1 月 31 日(月)

令和 3 年度の予算・決算報告

単位：円

費　　目	予　算(A)	決　算(B)	差額(A－B)
プロジェクト費	**4,000,000**	**2,271,817**	**1,728,183**
地域連携プロジェクト	3,000,000	1,822,603	1,177,397
地域貢献プロジェクト	1,000,000	449,214	550,786
連携・協定関係費	**715,000**	**564,751**	**150,249**
事業運営費	**4,400,000**	**999,820**	**3,400,180**
大妻さくらフェスティバル	1,700,000	977,346	722,654
センター自主企画等	1,900,000	0	1,900,000
公開講座等	800,000	22,474	777,526
センター事務経費	**800,000**	**486,195**	**313,805**
千代田キャンパス	500,000	351,316	148,684
多摩キャンパス	300,000	134,879	165,121
合　　計	**9,915,000**	**4,322,583**	**5,592,417**

令和 3 年度の会議

地域連携推進センター運営委員会

第 1 回　令和 3 年 5 月 12 日(水)(文書協議)

第 2 回　令和 3 年 9 月 15 日(水)(文書協議)

地域連携推進センター企画実行委員会開催

第 1 回　令和 3 年 4 月 30 日(金)(文書協議)

第 2 回　令和 3 年 11 月 9 日(火)(文書協議)

大妻さくらフェスティバル 2022 実行委員会

第 1 回　令和 3 年 11 月 22 日(月)(文書協議)

資料

大妻女子大学地域連携推進センター規程

平成 25 年 3 月 27 日
制定

（趣旨）

第 1 条　この規程は、本学における地域連携・社会貢献等（以下「地域連携」という。）推進の中核的組織としての機能を果たすことを目的とし、大妻女子大学学則（昭和 48 年 4 月 1 日制定）第 39 条第 3 項及び大妻女子大学短期大学部学則（昭和 49 年 4 月 1 日制定）第 39 条第 2 項の規定に基づき、大妻女子大学地域連携推進センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（業務）

第 2 条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　産学官連携に関する業務

・地域連携にかかる活動や事業の情報発信に関する業務

・地域連携のためのプロジェクト事業等に関する業務

・社会（市民、企業、行政等）のニーズと大学の持つ機能のマッチング支援に関する業務

(2)　卒業生及び同窓会との連携に関する業務

(3)　中学・高校・大学との連携に関する業務

(4)　公開講座に関する業務

(5)　地域連携推進センターの分掌に係る会議に関する業務

(6)　前各号に掲げる業務の他、地域連携に関する業務

2　前項の業務を行うための事務は、センターが行う。

（組織）

第 3 条　センターに次の教職員を置く。

(1)　センター所長

(2)　センター事務部長

(3)　センター事務課長

(4)　センター事務職員　若干名

2　センター業務に関して、その共同推進、学内の横断的連携推進等を図るために、必要に応じて、併任教員を置くことができる。

3　センター併任教員は、学長が委嘱する。任期は 2 年とし、再任を妨げない。

4　センター所長は、本学専任教員の中から学長が任命する。任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

5　センター所長は、センターの業務を掌理する。また、所長に事故あるときは、所長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

（運営委員会及び企画実行委員会）

第 4 条　センターに、センターの運営その他の重要事項を審議するため、センター運営委員会を置く。

2　第2条に掲げる業務の企画実行を行うため、センター運営委員会の下にセンター企画実行委員会を置く。

3　センター運営委員会及びセンター企画実行委員会の規程は、別に定める。

（運営細則）

第5条　この規程に定めるもののほか、センターの管理・運営について必要な事項は、運営細則として別に定める。

（規程の改廃）

第6条　この規程の改廃は、センター運営委員会の議を経て、大学運営会議において定める。

附　則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、平成25年6月25日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附　則

この規程は、平成27年5月26日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附　則

この規程は、平成29年6月6日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附　則

この規程は、平成30年5月9日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

大妻女子大学地域連携推進センター運営委員会規程

平成25年3月27日
制定

（趣旨）

第1条　この規程は、大妻女子大学地域連携推進センター規程（平成25年3月27日制定）第4条第1項の規定に基づき設置される、大妻女子大学地域連携推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（所掌事項）

第2条　運営委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

(1)　大妻女子大学地域連携推進センター（以下「センター」という。）の運営の方針等に関する事項

(2)　センター規程及びセンター運営委員会規程等の改廃に関する事項

(3)　センターの運営に関する予算及び決算等に関する事項

(4)　その他センターの運営に関する必要な事項

（組織）

第3条　運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　センター所長

(2)　センター事務部長

(3)　センター事務課長

(4)　家政学部長、文学部長、社会情報学部長、人間関係学部長、比較文化学部長及び短期大学部長

(5)　人間文化研究科長

(6)　事務局長

(7)　その他学長の委嘱する者　若干名

2　前項第7号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

3　学長、副学長及び事務局各部長は運営委員会に出席し、意見を述べることができる。

（委員長）

第4条　運営委員会に委員長を置き、所長をもってこれに充てる。

2　委員長は運営委員会を代表し、その職務を掌理する。

3　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

（会議）

第5条　委員長は、原則として運営委員会を年2回招集し、その議長となる。

2　運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

3　議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

4　運営委員会は、委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴取することができる。

5　運営委員会は、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

6　運営委員会は、委員長が認めるときは、文書協議をもってそれに代えることができる。

（庶務）

第6条　運営委員会の庶務は、センターが行う。

（補足）

第 7 条　この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関して必要な事項は、運営委員会において定める。

（規程の改廃）

第 8 条　この規程の改廃は、運営委員会において定める。

附　則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

大妻女子大学地域連携推進センター企画実行委員会規程

平成25年3月27日
制定

（趣旨）

第1条　この規程は、大妻女子大学地域連携推進センター規程（平成25年3月27日制定）第4条第2項の規定に基づき設置される、大妻女子大学地域連携推進センター企画実行委員会（以下「企画実行委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（所掌事項）

第2条　企画実行委員会は、大妻女子大学地域連携推進センター（以下「センター」という。）の運営方針に基づき、次の各号に掲げる事項について審議する。

(1)　産学官連携に関する事項
　・地域連携にかかる活動や事業の情報発信に関する事項
　・地域連携のためのプロジェクト事業等の企画・実行に関する事項
　・社会（市民、企業、行政等）のニーズと大学の持つ機能のマッチング支援に関する事項

(2)　卒業生及び同窓会との連携に関する事項

(3)　中学・高校・大学との連携に関する事項

(4)　公開講座に関する事項

(5)　地域連携推進センターの分掌に係る会議に関する事項

(6)　企画実行委員会規程等の改廃に関する事項

(7)　その他センターの企画・実行に関し必要な事項

（組織）

第3条　企画実行委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　センター所長

(2)　センター事務部長

(3)　センター事務課長

(4)　センター事務職員から1名

(5)　センター併任教員

(6)　家政学部、文学部、社会情報学部、人間関係学部、比較文化学部、短期大学部及び人間文化研究科から選ばれた専任教員（各学部1名、人間文化研究科1名）

(7)　学長の委嘱する専任教員　若干名

(8)　その他事務局長の委嘱する者　若干名

2　前項第6号、第7号及び第8号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

3　前項第6号及び第8号の委員は、併任教員が兼務することができる。

（委員長）

第4条　企画実行委員会に委員長を置き、所長をもってこれに充てる。

2　委員長は企画実行委員会を代表し、その職務を掌理する。

3　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（会議）

第5条　委員長は、必要に応じて委員会を招集し、その議長となる。

2　企画実行委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

3　議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

4　企画実行委員会は、委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴取することができる。

5　企画実行委員会で企画した事業等は、必要に応じ、大妻女子大学地域連携推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の承認を得るものとする。

（庶務）

第6条　企画実行委員会の庶務は、センターが行う。

（補足）

第7条　この規程に定めるもののほか、企画実行委員会の運営に関して必要な事項は、企画実行委員会において定める。

（規程の改廃）

第8条　この規程の改廃は、企画実行委員会の議を経て、運営委員会において定める。

附　則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、平成27年5月26日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附　則

この規程は、平成29年6月6日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附　則

この規程は、平成30年5月9日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

大妻女子大学　地域連携推進センター
令和３年度年報　第９号

令和４年６月発行

大妻女子大学　地域連携推進センター
〒102-8357　東京都千代田区三番町 12 番地
TEL　(03)5275-6877
URL　https://www.otsuma.ac.jp/society/
E-mail　chiiki@ml.otsuma.ac.jp